

2022 年度支部長報告 2022 年度支部長 渡邊 太海

2022 年度、関東甲信越支部は「魅力ある JIA・行動する JIA」を目指し、以下 3 つの重点活動を掲げました。具体的な取り組みを報告します。

1. JIA 活動の活性化と社会への発信

- ・本部オンライン／リモート特別委員会の活動報告を行い、今後の会員間の交流に欠かせないエキスパートインデックスの重要性を認識しました。(1/13「新春の集い」3/24「委員長・地域サミット合同会議」)
- ・JIA 活動を社会により多く発信するため支部ホームページの刷新を行いました。(3/24「委員長・地域サミット合同会議」)
- ・保存再生活動の要望書や提言書を行政、関係者に提出しました。
「旧林愛作邸」「旧更埴市庁舎」「品川区御料車庫」「目黒区美術館」などです。

2. 建築家の職能及び資質の向上

- ・建築家資格制度の勉強会を行いました。日本大学教授の速水清孝氏の講演「建築仕法の成り立ちとその目的」と常任幹事会でまとめた「資格制度をめぐる JIA の取り組み」を題材に、オンラインながら会員間で資格制度の理解を深めました。(1/13「新春の集い」)
- ・総会後の会員集会では「建築家資格制度のこれから」をテーマに現在の状況などを発表予定です。
- ・国交省からの情報をタイムリーに会員に発信できるよう常任幹事会でダイジェスト版を作り支部ホームページに掲載しました。
- ・建築家賠償保険（ケンバイ）加入の推進として、関東甲信越支部が主体となり地域会に呼びかけを行いました。事故事例勉強会を中心に今後も取り組む予定です。

3. 建築家が社会貢献しやすい組織づくり

- ・オンライン／リモートの活用は広域にまたがる J I A 活動には欠かせません。役員会、委員長・地域サミット合同会議、常任幹事会など主な会議はリモートで実施しました。(7/22「委員長・地域サミット合同会議」、3/24「委員長・地域サミット合同会議」)
- ・リモート会議への準備はリアルに比べて大変であり、限られた会員に準備などの業務が偏らない体制の必要性から常任幹事を増員しました。
- ・オンラインを活用したウィズコロナでの活動方法として新たにブレイクアウトルームを活用しました。新春の集いや地域会・委員長・部会長サミット後の懇談会では約 80 名をテーマごとに 10 部屋に分け 7～8 名でじっくり議論し好評を得ました。
- ・遊休財産の保有制限を超える剰余金の圧縮に関する対応策として、災害、大会イベント開催準備、情報システム改良、教育目的、地域連携事業への積み立てを行いました。
- ・全国大会など各地域会会員が参加しやすいよう地域会活動費についてのガイドラインを整理しました。

建築家を取り巻く厳しい環境のなか解決に向けて積極的に取り組む必要性、社会に貢献する建築家として、その責任を確実に果たすことのできる環境を築くことの重要性を再認識しました。